



イングリッシュ・サマーキャンプ初開催

宮崎国際大学との共催による「綾イングリッシュ・サマーキャンプ」を8月17日～18日にユネスコエコパークセンターで開催しました。綾中学校の生徒9人と同大学の留学生・インターン生らが、英語を使って異文化交流を楽しみながら綾町の自然環境について学ぶ初のプログラムです。

サマーキャンプは、インド、バン格拉デシュ、フィリピンなど留学生の出身国をテーマにしたブースを巡ってそれぞれの文化やゲームを体験することからスタート。また、各国の料理と一緒に作って味わいながら、異文化に触れました。

自然環境について学ぶ時間には、子どもたちが動植物になりきり、それぞれの立場から生態系のつながりを体感するネイチャーゲームを体験。身近な自然の中にある生きもの同士のかかわりを学んだほか、それを英語で表現することにも挑戦しました。

2日目の夜には、早川農苑や有木農園、猟友会の小西さんから提供された地元の野菜やイノシシ肉を使い、「綾の恵み」を生かした料理に舌鼓を打ちました。初日は緊張が見られた中学生も、身振り手振りを交えながら留学生との会話を笑顔で楽しんでいる様子でした。

最後のプログラムは、2日間の学びや体験をもとにスキット（寸劇）を制作し英語で発表するというもの。参加した中学生からは「外国の文化に触れることができて楽しかった」「英語をもっと学びたい」「英語がうまく話せなくても、言いたいことや思いが通じるとうれしい」などの声が上がっていました。

世界と綾。英語を通じて異なる文化に触れながら、地元の豊かな自然・文化をあらためて見つめる2日間となりました。



出身地の国旗を持って集合



フィールド学習の様子

